

## 第4章 エゾシカおよびヒグマに関する市民意識アンケート調査

### 4-1 アンケート調査結果

#### (1) 野生動物問題とその対策への認知度（本調査サンプル数 457 件の結果）

表 4-1-1 と図 4-1-1 は北海道でのエゾシカやヒグマの被害について知っているかを被験者に尋ねたところ、9 割近くが知っていると答えた。

表 4-1-1 北海道でのエゾシカ・ヒグマ被害認知

回答	件数	%
1 知っている	406	88.8%
2 聞いたことがある	38	8.3%
3 知らない	13	2.8%
計	457	100.0%

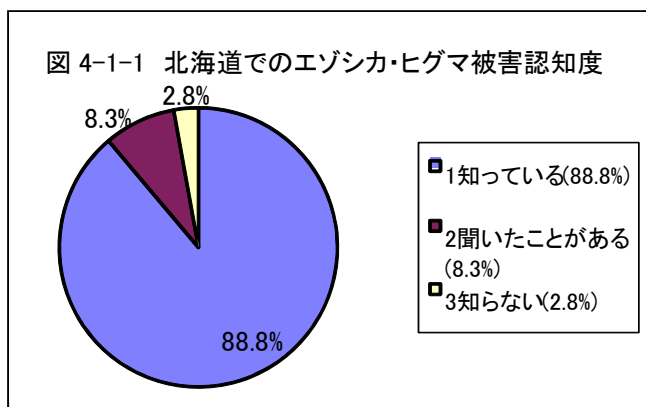


表 4-1-2 と図 4-1-2 は札幌市におけるエゾシカやヒグマの被害について知っているかどうか尋ねたところ、7 割強が知っていると答えている。

表 4-1-2 札幌市でのエゾシカ・ヒグマ被害認知度合い

回答	件数	%
1 知っている	330	72.2%
2 聞いたことがある	66	14.4%
3 知らない	61	13.3%
計	457	100.0%

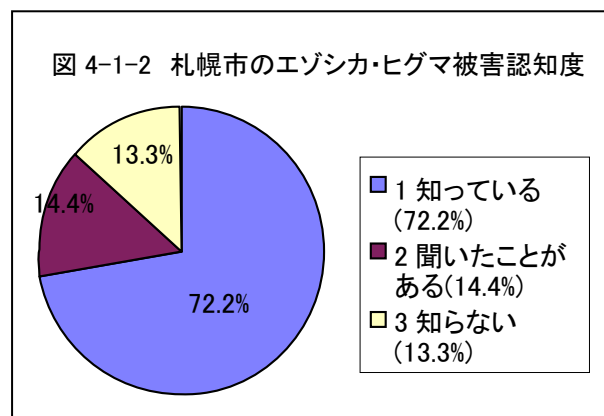
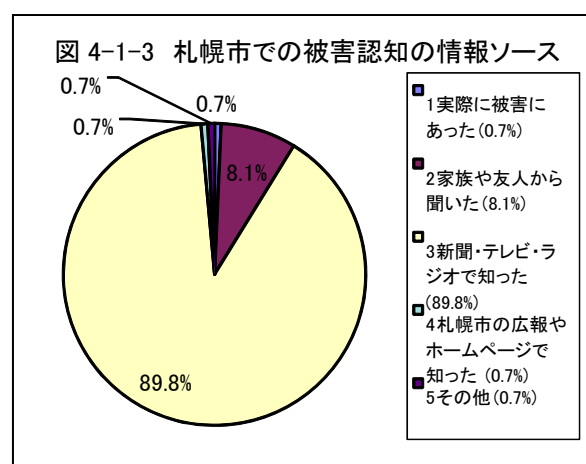


表 4-1-3 と図 4-1-3 は札幌市でのエゾシカとヒグマの被害を知っていると答えた 330 名に対して何で知ったかを複数回答で尋ねた結果である。実際に被害にあった市民も被験者の中にはいたが、圧倒的に新聞・テレビ・ラジオのマスメディアによって認識していることが分かった。

表 4-1-3 市での被害認知の情報源は  
(知っていると答えた 330 人の複数回答)

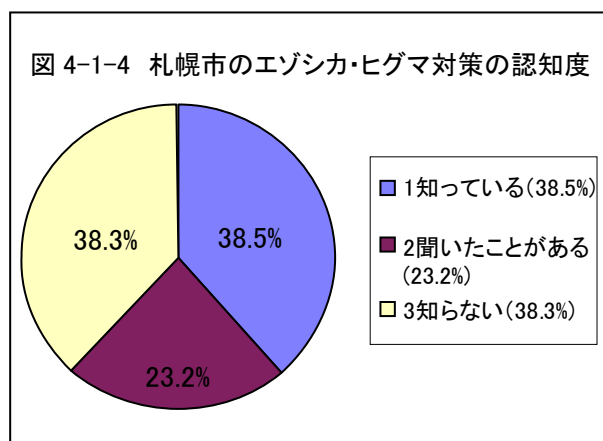
回答	件数 (複数回答)	%
1 実際に被害にあった	3	0.7%
2 家族や友人から聞いた	34	8.1%
3 新聞・テレビ・ラジオで知った	378	89.8%
4 札幌市の広報や HP で知った	3	0.7%
5 その他	3	0.7%
計	421	100.0%



札幌市がエゾシカやヒグマの出没対策を行っていることについて知っているかどうか尋ねたところ、被験者の 40% 近い人が知らないと答えている。

表 4-1-4 札幌市における対策の認知度

回答	集計	%
1 知っている	176	38.5%
2 聞いたことがある	106	23.2%
3 知らない	175	38.3%
計	457	100.0%



## (2) 野生動物問題に対する対策費用に関する意識

札幌市におけるエゾシカとヒグマの対策の継続について聞いたところ、継続を望むのは人の割合 98% であった。これは次の設問で対策費用を聞く前提として大きな意味がある。すなわち、札幌市の対策について多くの市民が継続することを望んでいることが判明したことがアンケートの 1 つの成果であり、求められている支払い意志額の妥当性を示すものとなる。

表 4-1-5 札幌市での対策の継続について

回答	件数	%
1 必要だと思う	448	98.0%
2 必要だと思わない	9	2.0%
計	457	100.0%

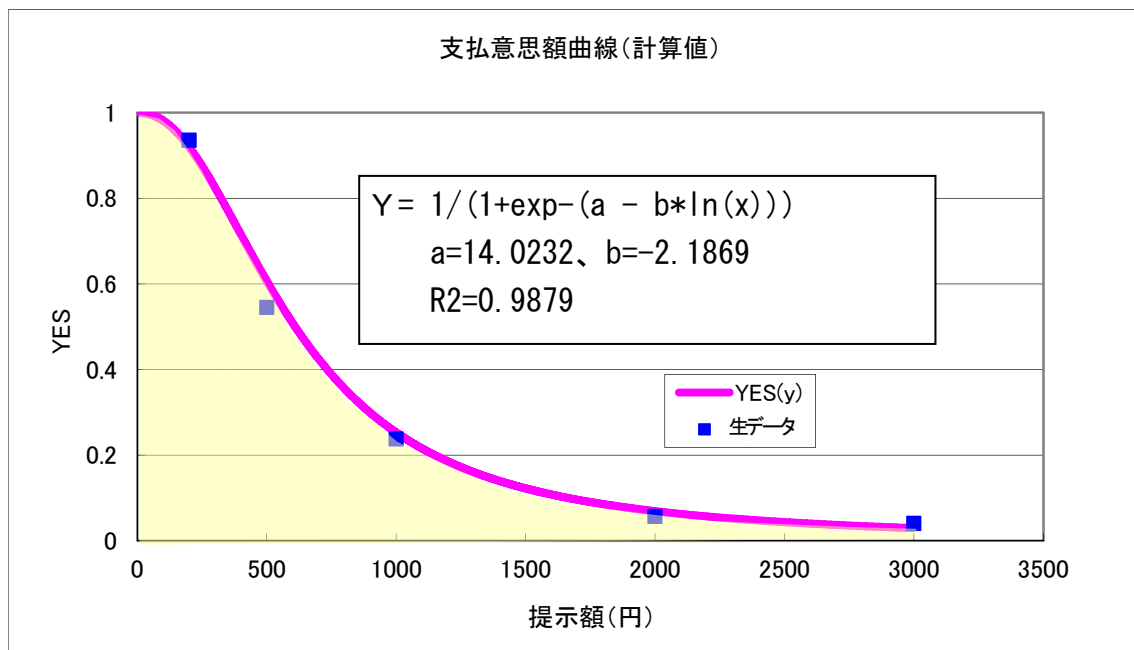
さらに、対策を税金で行う場合について尋ねたところ、「対策が必要で税金を支払ってもいい」と答えた被験者は全体の81.2%であった。一方、「対策は必要と考えるが、税金を支払うには反対」と答えた人は16.8%であった。「対策自体も必要でなく税金も支払わない」とした人は2%であった。

表 4-1-6 税金によるエゾシカ・ヒグマ対策継続の賛否

回答	件数	%
対策必要で税金支払い賛成	371	81.2%
対策必要でも税金支払い反対	77	16.8%
対策自体が必要だと思わない	9	2.0%
総計	457	100.0%

図 4-1-5 示す曲線について、一世帯当たりの平均支払い意志金額を計算したところ、平均値として806 円/年・世帯の値が算出された。

一方では、こうした税金の支払いに伴う施策に関しては、反対者がいようとも決定された段階で全世界帯に一律に課せられるため、その場合を想定して単純に計算すると、札幌市で約96万6千世帯から年間806円のエゾシカ・ヒグマ対策費を税金として集めると仮定すると、概算で年間7億7800万円程度の額が見積もられることとなる。



平均値	WTP(x)	積分区間
	806 円/年	1~3000 円

図 4-1-5 本調査で得られた支払い意思額曲線

### (3) 今後のエゾシカとヒグマの取り扱いに関する市民感情

アンケートの最後に、市街地に出没するエゾシカやヒグマの対処方法について市民の意見を尋ねた。表 4-1-7 は市街地に出没したエゾシカを捕獲した場合に、再度の出現の可能性もあるので安楽死をさせても仕方ないかどうか聞いたところ、56.5%は「安楽死も仕方ない」と答えているが「放獣すべき」は25.6%、または「分からない」と答えたのが11.6%であった。

回答での「分からない」は消極的ながら安楽死に抵抗している可能性がある一方で、安楽死に抵抗感があるのは25.6%と11.6%を合わせた37.2%という解釈ができる。

一方、頭数が増えてシカの出没を抑えるために、野生の生息地での捕獲（捕殺ではない）の可否について尋ねたところ、7割近くが「捕獲も仕方ない」と答えている。一方の「捕獲に反対」は1割強あったが「分からない」と答えた人がそれを上回り16.2%であった（表 4-1-8 参照）。

表 4-1-7 捕獲したエゾシカの安楽死について

回答	件数	%
1 安楽死も仕方ない	258	56.5%
2 放獣すべき	117	25.6%
3 わからない	53	11.6%
4 その他	29	6.3%
計	457	100%

表 4-1-8 生息地でのエゾシカ捕獲

回答	件数	%
1 捕獲仕方ない	313	68.5%
2 捕獲反対	56	12.3%
3 わからない	74	16.2%
4 その他	14	3.1%
計	457	100%

ヒグマに関しては、出没したヒグマが問題を繰り返し引き起こして改善の見込みがない場合に駆除（捕殺）を実施していることを述べて、それに対して意見を求めたところ、問題を起こすヒグマについては80.5%が捕殺を伴う駆除も仕方ないと回答している一方、「駆除反対」と答えているのは全体の8.3%であった。

表 4-1-9 問題ヒグマの駆除について

回答	件数	%
1 駆除仕方ない	368	80.5%
2 駆除反対	38	8.3%
3 わからない	32	7.0%
4 その他	19	4.2%
計	457	100.0%

## 4-2 アンケート調査結果の考察

札幌市の 457 件の世帯に対して行ったアンケートの調査結果から以下の様な事が分かった。

### <市民へのアンケート調査のまとめ>

1. 被験者の 9 割以上が「北海道におけるエゾシカやヒグマの被害」について認知していた。
2. 被験者の 7 割以上が「札幌市におけるエゾシカやヒグマの被害」について認知していた。
3. 札幌市におけるエゾシカやヒグマの被害を認知した方法としては、9 割近くが新聞・テレビ・ラジオによるものであり、札幌市の広報や HP からの認知は少なかった。
4. 札幌市がエゾシカやヒグマ出没に対して対策を取っていることを 4 割近い人が知らないと答えている。
5. 札幌市におけるエゾシカ・ヒグマ対策の継続を望むのは 98% 近くあり、81% が税金を使っての対策の継続に賛成を示している。
6. 「エゾシカ・ヒグマ対策が必要であり税金を払っても良い」と回答した 371 件（被験者の 81% に相当）について CVM（仮想市場評価法）の解析を行なったところ 1 世帯が 1 年間にエゾシカ・ヒグマ対策に税金として支払ってもいい金額は 806 円であった。
7. 仮に、札幌市の約 96 万 6 千世帯すべてに対してこうした税金を願いすると仮定した場合には、概算で年間で 7 億 7800 万円程度の支払意志額が見積もられた。
8. 捕獲したエゾシカの安楽死については 5 割強が仕方なしと答えている。一方、出没対策としての野生生息地でのエゾシカ捕獲には 7 割近い人が仕方ないと考えている。
9. ヒグマについては、継続して問題を起こすヒグマについては現在行っている捕殺を伴う駆除も仕方ないと 8 割の人が考えていることが分かった。